

繁栄の中での預言

アモス書1章

彼は言った、「主はシオンからほえ、エルサレムから声を出される。牧者の牧場は嘆き、カルメルの頂は枯れる」。(2)

アモスは職業的な預言者ではなく、羊を牧する一信徒でありましたが、神によって特別に選ばれて神の言葉を告げる働きを与えられました。彼は南王国ユダの人でしたが、北王国イスラエルに対してその滅亡が近づいていることを告げる働きを担いました。

彼が預言した時代は、南王国ユダと北王国イスラエルの両国とも繁栄と平和を享受していた時期でした。そのように人々が満ち足りていた時代に、アモスは主の審きの声を告げたのです。「牧者の牧場は嘆き、カルメルの頂は枯れる」。南にある牧場では豊かな草原に羊たちがたわむれ、北にあるカルメル山は緑に覆われていました。ところが、その牧場は嘆きの場所となり、カルメルの頂きは枯れ果てると預言したのです。繁栄と平和を楽しんでいた当時の人々にとり、アモスの言葉は到底受け入れられるものではありませんでした。アモスは神の言葉に素直に耳を傾けようとはしない人々に対して、厳しい神の審きの言葉を語らなければなりませんでした。人々にどう受け入れられるかではなく、神がどのように語られたかを第一としていたからこそ、この働きを続けることができたのです。

この世にあつて預言者としての働きを担う教会は、たとえ時代に逆行するようであつても神の言葉をストレートに語る責任があることを心に刻みたいものです。